

は工場組織的な生産によつて農民が生産に於ける規律遵守の精神を學ぶことである。

従来農業が天候を相手とした個人的生産であることは、農村が労力の不足に對處する為協同作業等によつて能率の増進を圖るべき場合に於て、往々その組織化を困難ならしめてゐる。農村は通勤勞務者と通じて工業生産に於ける協力、規律遵守の精神を學ぶべく努めねばならぬ。農民に於ける規律遵守の精神の向上、農村の倫理の近代化は直接には近接する工場に對し、間接には國全体の産業の基礎をそれだけ確固たらしむるにあらう總ての農村工業が稼働率の不安定に悩んでゐるのである。種々な稼働率を示してゐる例のあるこ

とを再思せねばならぬ。

八、農村の側より工場勞務者の生活に寄與すべき事項の一つとして菜園の問題がある。工場が通勤勞務者に加配の意味に於て食糧を給與する為の自給農園は、一般配給機構の強化により無用となすべきことを前述したか、勞務者住宅に附屬する菜園は一般配給を乱す程の比でないのか普通であり、勞務者にとり益まじきものではない。故に出来る限りこれを與ふべく努めねばならぬ。これを得難き場合には農村側に於て土地利用の公的管理によつて適切な供給の途を講ずる必要がある。

例へば従來の農家から所謂職工農家に轉じたもので